

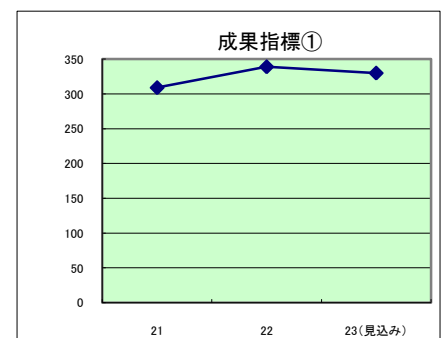
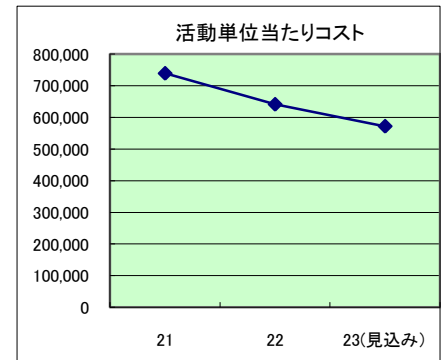
平成 23 年度 事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号

保福支26

事務事業名		陵南の森老人福祉センター運営事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち	款	3	民生費	
	施策(節)	3	高齢者福祉	項	1	社会福祉費	
	施策の方向	(3)	高齢者の生きがいがづくりの促進	目	5	老人福祉施設費	
	関連する計画等			事業	1	陵南の森老人福祉センター運営	
作成部署				保健福祉部福祉支援課 (陵南の森老人福祉センター)			
連絡先				072 - 958 - 1111 内線 5500			
事業の目的	対象(誰を・何を) 市内在住で60歳以上の高齢者 意図(どういう状態にしたいのか) 教養の向上、レクリエーション、機能回復、生活相談などを通じて高齢者の憩いの場の提供と健康増進を図る。						
事業の内容	○運営1 健康づくり、健康管理を推進 ・生きがい教室を19回開講(歌謡教室12回、ストレッチ教室2回、簡単料理教室1回、カラオケ入門教室2回、民舞踊教室2回) ・イベントとして、高齢者の運動会を年1回開催。 ・南河内ブロック連絡協議会において、クラブ発表交流会を開催(カラオケ、バンパープール、社交ダンス、芸能) ○運営2 クラブ連絡協議会の事務局業務 当センターでは、27クラブが活動している。統括するクラブ連絡協議会が組織されており、協議会の円滑な運営のため、事務局として関わっている。クラブ活動の成果発表の場として、年1回「陵南ふれあいフェスタ」を開催。						
根拠法令等	老人福祉法、羽曳野市老人福祉センター条例						
事業開始時期	☒ 昭和 58 年開始 ☐ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度 ☐ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている						
事業開始時からの状況変化	利用者の増加により施設的に手狭になっている。また、超高齢化社会を迎え、更なるサービスの充実に向けて、IT関連機器設置の必要性が高くなってきている。						
市民や議会の要望	施設の拡充並びにリフォームに対する要望が寄せられている。						
実施手法	☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他			委託内容			

区 分		21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		1,694	1,769	1,094	
人件費【2】 (千円)		19,740	15,540	14,340	
職員数	正規職員	2.00 人	1.50 人	1.00 人	
	再任用職員	2.00 人	2.00 人	3.40 人	
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	臨時職員	0.30 人	0.30 人	0.00 人	
	超過勤務(参考) (時間)	8.00 時間	34.50 時間	35.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		21,434	17,309	15,434	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)	301	259	326	
	一般財源 (千円)	21,133	17,050	15,108	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① クラブ数		クラブ	29	27	27
② クラブ員数		人	642	615	617
③ 開館日数		日	359	359	359
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)			739,103 円	641,074 円	571,630 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)			180 円	147 円	131 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度
	①	事業・講座申込者数 (式)	人	講座・運動会等の申込者	目標	420	330	達成率(%)	330
					実績	309	339	102.7%	
	②	老人福祉センター利用者数 (式)	人	クラブ活動数・一般利用者数	目標	70,000	70,000	達成率(%)	70,000
					実績	60,945	70,749	101.1%	

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	老人福祉法によるセンター設置・運営。市条例等に則った事業でもあり、市全般の事業に関する問合せも多く、市職員による業務遂行が望ましい。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	超高齢化社会を迎え、年々、高齢者人口比率が高まる中、老人福祉法に基づく利用者の心身の健康保持、生活相談・健康相談業務による生活安定を担う施設として妥当である。今後、ますます利用者の増加が予想されるため、市民ニーズを踏まえた更なるサービスの充実が求められる。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☐	☒	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	老人福祉センター主催・共催事業、クラブ連絡協議会主催・共催事業、その他事業において、老人福祉センター担当職員のみならず、総合センター職員、公民館職員の協力を得ながら、極めて効率よく事業運営が行われている。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	年間を通じて行っている老人生きがい講座は、「健康で明るく老後を過ごそう・目指せ生きがいアップ」を合言葉に実施している。各講座(歌謡教室、簡単料理、ストレッチ教室、民謡教室等)は、老人の心身健康保持に有効性が高い。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	毎年10月に開催する陵南ふれあいフェスタには、陵南の森老人センタークラブ連絡協議会および27クラブの会員が企画・立案・準備等を協働で実施している。また、連絡協議会では、一般市民を対象にカラオケ交流会事業を運営しており、協働性については、高い水準にある。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	成果が向上した背景には、物理的に高齢者人口が増加したこともあるが、教養向上のためのサービスや生活・健康相談業務などを行う施設として、魅力が高まっていることも考えられる。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	老人福祉センターでは、今後、利用者のさらなる増加が予測されることから、施設・設備面での課題の解消をはじめ、多種多様なニーズの充足に取り組む必要がある。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行革本部評価	今後高齢者が増えていくうえで、市民が生き生きと楽しく教養を深めて頂くために、ハード・ソフト両面の充実に努める。とりわけ、老朽化した施設の改善、健康器具等の設備を充実していきたい。	
	評価理由・意見	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	